

新型コロナウイルス感染症対策に係る ICT 教育について

1. ICT(情報通信技術)環境整備の状況について

①GIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想(令和元年 12 月)

子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて
～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～

当初計画：令和 5 年度までに小中全学年の児童生徒 1 人 1 台コンピュータを実現
令和 2 年度までに全ての小中学校に高速大容量の通信ネットワークを
整備

新型コロナウイルス感染症の感染拡大 → **学校の臨時休校**

GIGA スクール構想の加速(令和2年度補正予算)

ICT の活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早期に実現

- ：児童生徒の端末整備支援……「1人1台端末」の早期実現
- 学校ネットワーク環境の全校整備
- 緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備
 - ・家庭学習のための通信機器整備支援
 - ・学校からの遠隔学習機能の強化

②本宮市の整備状況

- ・高速大容量の通信ネットワーク及び電源キャビネットの整備
令和3年3月 全校の整備完了
- ・一人1台タブレットの整備
モデル校 令和3年 1月 配備完了
全校 令和3年 3月 配備完了

2. デジタル教科書を用いた授業の実施状況及び今後の展開

①指導者用デジタル教科書の活用

小学校に国語、算数、理科、外国語、中学校に国語、社会、数学、理科、英語を導入している。その中で特に算数・数学の使用頻度が高い。また、小学校では低学年で国語、道徳、高学年の理科、外国語でほぼ毎時間活用している学校が多い。

[課題]

- 学年や担任により使用頻度に差がある。今後、より効果的に活用できる単元を明確にし、学校全体の取組にしていくことが大切である。

- 教職員の ICT 活用指導力の向上のため、教職員研修を充実させる必要がある。
 - ・ 情報モラル教育や ICT を活用した授業に関する研修の実施・充実による、教職員の ICT 活用指導力の向上
 - ・ 教職員の ICT を活用した授業の段階的活用に応じた教職員研修を行うことによる授業力の向上
 - ・ ICT 支援員の効果的な活用、校内研修カリキュラムや教材開発に取り組み、校内研修の充実を図る

②今後の展開

- ・ タブレットの導入とともに学習者用デジタル教科書が活用できるようになる。令和 3 年度には、国の実証事業として 5 校が各 1 教科ずつ導入する予定である。実証事業の結果を受けて本市としての学習者用デジタル教科書導入の方針を決めていきたい。
- ・ 休校で授業が実施できない場合に備えて、1 人 1 台のタブレットを自宅に持ち帰り、オンラインで授業を行えるよう準備を進める。

○家庭のインターネット環境等に応じた対応方法

- ・ 小中学生の家庭における Wi-Fi 整備状況(令和 2 年 11 月アンケート調査)
実家庭の**9割程度**の家庭において Wi-Fi 環境が整備されている
- ・ Wi-Fi 環境のない家庭には、Wi-Fi ルーターを貸出する準備を進めている

3. 情報モラル教育の実施状況

①子どものネット・SNS 利用の実態

[小学校] ~福島県小学校長会生徒指導部アンケート調査結果より

全体の78%の子どもが、ネット・SNS を「利用している」。

利用者のうち、71.1%が自分用の機器を所有している。

利用内容は、多い順に「動画サイトを見る」、「通信ゲームをする」、「分からないことを調べる」

②児童生徒向けの実施状況

- ・ 中学 1 年生を対象に人工知能ロボット Pepper を使った情報モラル教育を実施
- ・ 携帯電話会社から講師を招き、学年ごとに情報モラルや携帯電話・SNS のトラブルについて講演会を実施
- ・ 各学年の道徳の授業で情報モラルについて学習 他

③保護者向けの実施状況

- ・ 毎年中学校区(二中)の保護者が集まり「メディア研修会」を実施(二中)
- ・ PTA 主催の「スマホ・ケータイ安全教室の実施」
- ・ 中学校の新生保護者説明会において、警察の講話を聴く 他